虚子記念文学館投句特選句・令和六年十月

稲畑廣太郎　選

木犀のよき香師のなき邸の庭　新潟　安原　葉

孫夫婦曾孫を抱いて来る小春　兵庫　上岡あきら

雨の日のつづきすとんと晴るる秋　神奈川　進藤剛至

産声の金風となる母の胸　鳥取　前田　千

うそ寒や風三角に尖りゆく　兵庫　足立朱麻

秋澄むや虚子安らかなデスマスク　兵庫　髙柳しずか

過去未来繋ぐ存在新松子　大阪　須知香代子

西側の空より広げ松手入　大阪　ふじもと言果

びわ湖までゆっくりもどる草の花　滋賀　太田　慈（青少年）

草いきれ川が埋もれる芦屋川　大阪　九里沙理奈（青少年）

入選句・令和六年十月

飯事の皿に鬼灯二つ三つ　埼玉　小田毬藻
晋山の衣の堅し新松子　京都　前　悦子
秋風を深く吸ひ込む朝かな　兵庫　池田文子
我ら皆汀子一門赤い羽根　京都　西村やすし
深川の青き俳碑爽けしや　兵庫　植坂和子
俳磚の庭に清楚や彼岸花　兵庫　木下薫風士
秋めくや虚子の数々新鮮に　兵庫　林　和子
秋声や虚子の遺愛の硯箱　兵庫　木下直子
彼岸花俳磚の句は永遠に　兵庫　吉村玲子
観音へ涼しき風や甲斐の国　奈良　堀ノ内和夫
連山の一山のみに霧の幕　三重　水越晴子
駅頭に人の去来や赤い羽根　大阪　河辺さち子
禿頭の市長も募る赤い羽根　奈良　堀田建夫
銅像の深き眼窩や小鳥来る　大阪　白坂流奈（青少年）
風は秋独り乗り込む無人駅　三重　池本準一
濠の上を縦横無尽鬼やんま　大阪　多田羅紀子
秋冷や訃報の電話鳴る朝　奈良　堀田ますみ
澄む空の先にそよりと返り花　兵庫　川村ひろみ
秋茄子に「愛している」と言ってみる　大阪　物部知達（青少年）
散歩する吾に萩の花ふわり　京都　カジオ・ブランコ
新米を軽々運ぶ夫の肩　三重　中島庸子
開門の席取り駆ける運動会　奈良　河村久美子
栗御飯口を食み出す丹波栗　兵庫　森岡喜惠子
長老の馴れし手付の囮籠　兵庫　小林昌子
やや寒も久しく待ちしものとして　大阪　石橋玲子

虚子館の日差しの空へ小鳥来る　大阪　谷本房子
一と雨に桂黄葉をあかす館　兵庫　黒田千賀子
コーヒーに栗添へ丹波路の茶房　兵庫　日下富貴子
ＵＦＯの基地へきちきちばつた跳ぶ　兵庫　小柴智子
鵙猛り杜深閑と締まりけり　兵庫　髙野さち
ふり返りふり返りしてまだ秋野　兵庫　山之口倫子
秋の野の一夜の雨に匂ひ立つ　大阪　杉山千恵子
贅沢の極み人気の丹波栗　三重　松村咲子
ぱつかりと爆ぜて焼き栗里の味　兵庫　村原美可
さやけしや俳磚の紺立ち上る　兵庫　藤井啓子
逃げやうのなき秋出水襲ふ能登　石川　白根寿子
背の高きほど草臥れて破蓮　大阪　西尾浩子
秋祭だんじり威勢よき朝　兵庫　奥田好子
遠吠えの余韻身に入む独りかな　兵庫　河野ひろみ
穭田の青の高さに鷺発てり　兵庫　涌羅由美
穭田や小さき命の風の詩　徳島　奥村　里
澄む水に日裏日表棹雫　岡山　石井宏幸
水鏡敗荷の下も敗荷かな　香川　葛原由起
穭穂の高さに六甲の日の落つる　兵庫　中村恵美
鳶舞うて館の秋晴高うする　香川　三宅久美子
献燈を一つ灯せる秋思かな　兵庫　山田佳乃
秋風の部屋を一周して出ぬ　兵庫　高杉靖子
立て膝に顎のせ砧打ちにけり　兵庫　辻　桂湖
風掬ひ風に掬はれ秋の蝶　香川　真鍋孝子
仕舞ひまで庭師の妻の松手入　徳島　多田まさ子
秋の夜を過ごす眼鏡を買ひ替へし　京都　山﨑貴子

秋風の残してゆきぬ一行詩　兵庫　池田雅かず
うそ寒し三十年ものの法螺話　兵庫　槌橋眞美
千草咲く俳磚の庭めぐりけり　大阪　林　曜子
舟に乗り兼六園の松手入　石川　辰巳葉流
秋晴や同級生と再開す　兵庫　永沢達明
秋水に溶かす絵の具や空のあを　兵庫　高橋純子
秋の声旧居留地の石造り　兵庫　岸川佐江
すごかったふるいと思ったたのしいな　兵庫　もりもとみお（青少年）
還暦の二歩手前虚子と俳句に出会えけり　兵庫　四つ葉っ子
光柱のひかりの中を鷹渡る　愛知　小野　薫
かなしびのちぎれて秋の雲と雲　大阪　押見げばげば
腹据えて遺書とチャンバラ菊爛漫　東京　木村三球
秋燈下百一歳の笑み語る　兵庫　北井真有美
浮橋か太公望か崩れ簗　大阪　椋本望生
別れ蚊や死に場所たるはわが右手　愛知　海神瑠珂
杉玉の誇らしげなる蔵の秋　兵庫　福田光博
虚子館に降り頻るは秋の雨　兵庫　凡田凡次郎
薄梅雨冷たい硝子手を伸ばし　兵庫　常　朔人
秋風に呼ばれて来たる蚊の姿　大阪　長谷川葉月
月を待つ切手の枠の白い波　静岡　いたまき芯
福島の新酒一献逝くクラウン　兵庫　風待ラテ
細やかな雨の一日や草紅葉　兵庫　岩水ひとみ
嵯峨菊の音符のごとく弾けたる　兵庫　高市敦之
長崎の鐘澄み渡る秋の声　石川　伊東弥太郎
ビワイチや白風頬にギア上げる　神奈川　小林　心
月一度訪ふ虚子館の秋の声　兵庫　平田　惠

マデバシイてふ木の実茹で山苞に　大阪　田邉育子
この角かお次の角か金木犀　兵庫　髙倉千都
夕さりのベンチ人見ず木の実降る　兵庫　二瓶美奈子
リハ終へし音楽堂に星月夜　滋賀　近江菫花
秋暦夏が去りずに冬来たる　兵庫　安本佳世
龍神の如く石鹸玉噴きけり　熊本　貴田雄介
町猫がのそりと過ぎて秋の雨　奈良　豚々舎休庵
逆上がりの影はエビ反り秋夕焼　神奈川　平野孤舟
丹波路や栗のスイーツ十色買ふ　兵庫　西村みどり
ふと其の香路地の何処や木犀花　兵庫　伊集院秀樹
夜寒果て句座の包みぬ活気かな　京都　杉森大介
走り来て金木犀で息を継ぐ　埼玉　土井洋子
写生せぬ句ばかり採られ暮の秋　和歌山　中島紀生
手品にも一役買ひしレモンかな　兵庫　惠島祥一朗
銀杏並木臭い広がり妻の笑み　兵庫　久保佳嗣
虫のこゑ染井を掬ふ行き返り　兵庫　キートスばんじょうし
蓑虫や道を尋ねる朝の駅　愛媛　星月彩也華
秋の雨ゴミのネットをたたむひと　滋賀　太田怒忘
岡場所の名残の街に曼珠沙華　兵庫　太平楽太郎
釣銭も糀まみれのべつたら市　神奈川　金子三奈乃
梅酒の温もり長い夜の始まり　神奈川　斉藤苑子
末枯のいまも枯れゆく音微か　東京　桜鯛みわ
兵の滅びし跡や草紅葉　石川　辰巳昌彦
鰯雲足場を駆くる若き鳶　兵庫　阿曽宏之